2010 年 4 月 15 日

第 18 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

●期間／2010 年 3 月 25・26・27・28 日　●会場／静岡県立三ヶ日青年の家（静岡県浜松市）
●共同主催／公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)、NPO 静岡セーリング連盟
●参加艇／ミニホッパー級：11 艇、SR 級：23 艇、ＦＪ級：6 艇

本大会は小学生から高校生までのジュニア、およびユース世代におけるセーリングスポーツの数少ない全国大会として位置付けられ、毎年、春休みの期間を利用して浜名湖で開催されています。
特に、一人乗り種目である SR 級は、インターハイ(高校総体）の種目に採用されていないことから、国体に次ぐステイタスの大会として認識されています。

参加クラブは、北は北海道から山陰は島根県から１６クラブ４６名が参加。初参加の２クラブ（大島海洋国際高校セーリング部、鳥取県セーリング連盟）を含め、昨年に比べると参加選手が少なかったものの、この季節は良い風が吹くことで知られる浜名湖という最高のゲレンデで、選手たちは中身の濃い４日間を過ごしました。
隻数が少ない中でも日頃培ったセーリングの技術を競い合うばかりでなく、技術を磨く選手達が交流する場として、心身ともにレベルアップできた大会となりました。

毎年恒例の特別コーチによる勉強会と海上・陸上での指導

今大会には、昨年に続き鹿屋体育大学助教でジュニア／ユースコーチである栄楽洋光氏、一昨年の五輪年に招いた北京五輪４７０級代表クルーの上野太郎選手を特別コーチとして招聘し技術的アドバイスを行ないました。
また本大会のプロテスト委員長でインターナショナルジュリーの村松哲太郎氏がレース後のミーティングでセーリングに関するルールの解説を行ない、あらゆる角度からセーリングについて学ぶ機会を得ました。
２５日の開会式後には、海洋冒険家の今給黎教子氏による外洋での航海をテーマにした講演が行われ「目標を持ってヨットに取り組むこと。タイプの異なるヨットに乗り、自分の世界を広げてください」と激励のエールを送りました。
大会中の勉強会が行われた「三ヶ日青年の家」第２研修室は、出場選手やコーチ、保護者が集まり、レースでのビデオを教材に興味深い講義が行われ参加した選手たちは熱心にメモを取ったり、勉強会後に個別に自分のセーリングビデオを見たり、講師へ質問するなど、有意義な時間を持つことができました。

榮樂コーチが、シングルハンダ―艇のチューニングやハンドリングを説明し、 上野選手がスループ艇のハンドリングからスタートの方法、レース戦術についてのレクチャーが行われました。
また海上では、レースの合間に海上での直接指導等が行われ、選手にとってレース前後にアドバイスを受けることは極めて有効にはたらき、下位グループを走っていた選手のパフォーマンスは目に見えて向上してきました。
上位を争うトップグループの選手たちも、レースの合間にコーチボートに近づきセーリングパフォーマンスのアドバイスを求めたり、コーチの指導に従って反復練習を繰り返すなど、熱血指導が多く見られました。

シーズンを通してオールラウンドの風速で、白熱したレースが展開される

大会初日の 3 月 26 日は北西の季節風が吹き荒れ、午後には風速 10m/s を超える強風となり、小中学生中心のミニホッパー級は 1 レースのみの成立となりましたが、高校生中心のシーホッパー級 SR（1 人乗り）と FJ 級（2 人乗り）は 4 レースが行われレース中に沈（転覆）が続出するシーンも多く見られましたが、ユース世代にはよい試練となる大会名のとおりチャレンジングなスタートとなりました。

２日目の 27 日も、終日 8m/s 前後の良い風が吹き、絶好のセーリング日和となりました。初日は 1 レースしかできなかったミニホッパー級も、選手たちが強風に慣れてきたこともあって、しっかり 4 レースが成立。前日は強風で走れなかった選手が、この日は沈（転覆）を繰り返しながらもフィニッシュラインまで走りきるなど、たった 1 日で大きく成長する姿に運営スタッフも目を細めていました。
23 艇が参加したシーホッパー級 SR では、上位５艇が抜きつ抜かれつの混戦となり、最終日まで僅差の優勝争いを繰り広げる接戦となり、レベルの高いヨットレースを見せてくれました。

最終日は、微風から軽風の神経戦となりましたが、SR 級では接戦を制した清水ヨットスポーツ少年団の杉山航一朗選手は、「最終 2 レースは少し緊張しましたが、ものすごく楽しいヨットレースになりました」と振り返った。また「この大会での優勝を目標に･･･。」と優勝にホッとした表情が印象的でした。

ＦＪ級では、開会式で選手宣誓を行なった細野泰佑選手（静岡県立相良高校ヨット部主将）が自らヘルムスを持ち、クルーの山西祐摩選手とのコンビでコンスタントに上位のポイントを獲得し、昨年に続き地元の相良高校が優勝しました。
ミニホッパー級では、天野大志選手（山中湖中学校ヨット部）が女子の千田春奈選手（室蘭セーリング協会）の追撃を振り切り、過去に優秀選手を多く輩出してきた名門ヨット部が優勝しました。
大会の３日間は、強風から微風とオールラウンドのコンディションの中、参加の選手たちもセーリングシーズンを前に、自らの力量と今後の課題を発見する良い体験ができたと思います。
また今回は、参加選手が毎日自らの目標を設定し、その目標がレースで実践できたかどうかの振り返りを、レース後の指導者と選手のミーティングでのコミュニケーションツールとして役立ててもらいました。
レース中に撮影した参加選手の帆走ビデオは、大会後に参加したクラブ代表者に配布し、参加した選手の課題の改善や今後のレベルアップに大いに役立ててもらいたいものです。

新たな大会スタイルを模索し３年目を迎えて

ここ数年、ジュニア/ユース世代のセーリング人口減少や、春休みの時期にジュニア／ユース選手を対象にした大会が各地で開催されるようになったこともあり、本大会の参加者数も大会ごとに増減傾向にあります。

16 回大会から 17 回大会では、参加クラブ、参加隻数ともに増加しましたが、今回 18 回は、減少と「この大会に参加したい」「参加してみよう」と思える大会までにはまだ成長、浸透していないのかもしれません。

16 回大会では、映像メディアの技術力を活用することでレース、講習会で記録したＤＶＤを配布、また陸上でもレース観戦、解説できるモニターの設置等、新たな取り組みを行いました。

16 回～18 回大会では、特別コーチを招いた大会期間中の勉強会、レース中の映像を参加クラブへ配布、今回は参加選手の目標設定を行なわせたり等参加選手のレベルアップに貢献できる試みとして、新たな取り組みを行なってきました。

本大会は、ただ競技会的要素のみでなく、ジュニア・ユースセイラ―及び指導者、保護者が「また参加したい」「浜名湖へ行けば何か発見できる」と感じられる大会を目指し、成長させることが主催者の大きな目標です。

今後も、この浜名湖から海外に羽ばたくセイラーが育つことを楽しみに、新たな役割を担うべく次回大会もより充実した大会を目指します。

＜上位成績＞

■ミニホッパー級(参加１１艇)
１位：天野大志（山中湖中学校ヨット部）
２位：千田春奈（室蘭セーリング協会）
３位：福岡寛太（山中湖中学校ヨット部）

■シーホッパーＳＲ級(参加２３艇)
１位：杉山航一朗（清水ヨットスポーツ少年団）
２位：佐藤 駿（山形県ジュニアヨットクラブ）
３位：栗原悠介（神奈川県ユースヨットクラブ）

■ＦＪ級(参加６艇)
１位：細野泰佑／山西祐摩（静岡県立相良高校ヨット部）
２位：佐々木樹里／藤原秀将（静岡県立三ヶ日高校ヨット部）
３位：大谷　陵／南葉優樹（いわき海星高校ヨット部）

＜競技種目＞

ｼｰﾎｯﾊﾟｰ級 SR

ﾐﾆﾎｯﾊﾟｰ級

Ｆ　Ｊ級

■ この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください
■公益財団法人　ヤマハ発動機スポーツ振興財団（YMFS）事務局：担当･箱守　〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500 番地
Tel. 0538-32-9827　Fax.0538-32-1112　http://www.ymfs.jp

講師として参加選手の指導を熱心に行なってくれた上野講師（左）、榮樂講師（右）

陸上、海上での直接指導は、選手たちに大きなアドバイスとなったことでしょう

シーホッパー級ＳＲ優勝：杉山航一朗選手
（清水ヨットスポーツ少年団）

ミニホッパー級優勝：天野大志選手
（山中湖中学校ヨット部）

ＦＪ級優勝：細野泰佑／山西佑摩組
（静岡県立相良高校ヨット部）

ＦＪ級女子優勝：菊池佳奈／今村弥恵子組
（静岡県立相良高校ヨット部）

クラブ対抗優勝：（清水ヨットスポーツ少年団）
シーホッパー級ＳＲ女子優勝の兼子えみ選手は、杉山選手と一緒に練習し、アベック優勝を獲得

閉会式後に入賞者を含めた記念写真

最終日、観覧艇からレースを観戦した長谷川至理事長（大会会長）は、最後まで全力を尽くして戦った選手たちの労をねぎらい、固い握手で勝利を祝福。「この大会で得た経験を通過点として、さらに上のレベルで活躍することを期待しています」と参加選手へエールを送った。